

言葉の歴史性を認識させる実践的研究

—「和歌の世界」を再現する言語活動を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（国語）

氏名 堀田 忠孝

本稿は、中等教育における古典の教材について、実践的な教育研究を試みたものである。愛知教育大学附属名古屋中学校の3年生の教室で実際に行われた授業実践の報告と、その報告についての考察からなる。

本実践では、現代に生きる子どもたちが言葉をより広い視野で捉えるために必要な「言葉の歴史性」に注目する。言葉を古典に照らし返すことで、自分たちは歴史的な存在であり、過去の人々の積み上げの上に自分がいることに気付かせるとともに、自らの発する「言葉の歴史性」を認識させることをめざした。

そのために具体的に取り上げたのは、『万葉・古今・新古今』『百人一首』などの「和歌の世界」である。『万葉・古今・新古今』の学びを起点として、「共時性」「通時性」のある言葉を意識し、和歌の替え歌とその解説文を書くという「和歌の世界」を再現する言語活動へと展開した。考察の結果、この言語活動には、古典教材が内包している「言葉の歴史性」を認識させる可能性があることが示された。